

【授業の概要】

現今の多様な世界観・人生観・道徳観が混在する社会的状況の中で、「なぜ倫理学を学ぶのか」という問いを考えていかなければならない。倫理や道徳の問題は自己の良心にかかわる問題であると同時に人間存在そのものにかかわる問題でもある。今日的課題もふまえて「生きる、生きていく」とはどういうことかを学生と共に考え、主体的に判断し行動する学生の資源を育成する。

【授業要旨】

回数	大項目	小項目	授 業 内 容 (留意点、テスト、レポート、作業、参考文献、教材等)
第1回	オリエンテーション	開講に当たり	○本学短大生としての誇りと自覚を喚起する。 ○受講上の態度や心得、ノートのとおり方、評価等について理解する。
第2回	倫理学	倫理学とは	○「倫理」の語義、「エシックス」の語源を中心にして、倫理学について理解する。 ・ēthos・ethos と「ethics」・「Ethik」 ・「倫」、「理」と「倫理学」
第3回	古代の幸福観	幸福の語源的意味	○ヒルティの「幸福論」、トルストイの「人生論」を紹介する。 ○エウダイモニア、ポヌール、ハビネス等の語源から幸福の意味－幸運との関係－を理解する。
第4回		ソクラテスの幸福観	○カロカガティア、アレテー (aretē)、知徳福の一致等を中心に理解する。 ・「知ハ徳ナリ」の思想は、主知主義の淵源であること。
第5回		プラトンの幸福観	○「ポリティアー」を中心に、プシュケーの三分説、四元徳から、幸福(観)について理解する。 ・観念論の創始(者) 個人的正義＝個人的徳＝個人の幸福 国家的正義＝国家的徳＝国家の幸福……「哲人政治」
第6回		アリストテレスの幸福観	○「ニコマコス倫理学」、テオーリア(theōria)を中心にして理解する。 ・「万学の祖」アリストテレスとその著作 ・人間の生活の三様態 ・nous と theō-ria
第7回		ストア・エピクロス派の幸福観	○アパティア、アタラクシアを中心に理解する。 ・大ソクラテス学派と小ソクラテス学派にも言及する。
第8回	中世の幸福観	セント・オーガスチンの幸福観	○人間の究極的目標である神を認識することが“心の平安”を得た真の幸福であることを理解する。 「新約聖書」、「告白」(397-400)・山田晶訳・中央公論社
第9回	近代の幸福観	ヒルティの幸福観	○「幸福はどのようにして得られるか」をテーマに、幸福(観)を理解する。 ・スイスの聖者ヒルティと「幸福論」・(1889～1899)草間・大和訳(岩波文庫)
第10回	まとめと反省	テスト(レポート)	○「幸福」とは何か 前半の講義内容の定着度を評価・反省し、後半の講義に対応する。
第11回	愛について	人生と愛	○「パンセ」(Pensées)を中心にしてパスカルの「愛」についてその概要を理解させ、学習への興味・関心を喚起する。 ・パンセ(全集)・松沢信三郎訳・人文書院・1959
第12回		エロース	○プラトンの「シンボシオン」・「パイドロス」を中心にエロースの愛の一般的な特質を理解する。 ・Erōs, Erān ・狂熱、善美への欲求、中間者、奪う愛
第13回		フィリア	○アリストテレスの「ニコマコス倫理学」を中心にしてフィリアの愛の一般的な特質を理解する。 ・Philia, Philein ・友愛、親愛、横の愛
第14回		アガペー	○新約聖書の「コリント人への前の手紙」第13章等を中心にしてアガペーの愛の一般的な特質を理解する。 ・Agapē, Agapan ・無私の愛、理由なき愛、縦の愛 ・「神を愛せよ」ということとは？
第15回	まとめ及び評価	まとめ及びテスト	○「愛」について、古典の中の「愛」、「幸福」についての一般的・基本的理解を深めることができたか。

【評価の方法】 受講態度、出席状況、ノート活用、レポート、定期試験等で評価する。

【テキスト】

【参考書】 「倫理学概論」 小倉志祥編・以文社

【研究】 「愛と人生」 著者代表平野龍一・東京大学出版会